

学校再編に関する意見書(二小校区保護者・)

【はじめに】P. 2

【再編を望ましくないとする理由】

1. 安全性の問題.....P. 3
2. コミュニティの核としての重要性.....P. 4
3. 教育環境について.....P. 5
4. 跡地活用について.....P. 5

【デメリットの軽減・メリットの最大化】

小規模校における課題整理.....P. 6

【二小存続に向けた方策案】

SDGs 未来都市モデル校

- ・ユネスコスクールへの加盟.....P. 7
- ・こども会議の開催.....P. 7
- ・絵本のひろば.....P. 8
- ・オンライン交流.....P. 8
- ・二小食堂.....P. 8
- ・ランドセルバンク設立.....P. 9
- ・ニユセフマンスリーサポート.....P. 9

複合化×誰ひとり取り残さない社会の実現

- ・親子カフェ.....P. 10
- ・フリースクール併設.....P. 10

シビックプライドの醸成

- ・プロジェクションマッピング.....P. 11
- ・歩いてみたくなるハイキングコース作り.....P. 11

キャリア教育

- ・本日開店！たこ焼屋さん.....P. 11

【おわりに】P. 12

【添付資料】 通学路検証（令和2年4月検証報告）

【はじめに】

生駒南第二小学校（以下、二小とします）の生駒南小学校（以下、南小とします）との再編に関する当二小校区地域協議会において、再編ではなく二小を存続させるための協議会として全委員一致の想いをもって各回の協議に臨んでいます。

当校区として存続を求めるための意見書を提出するにあたり、大きく3つの観点よりまとめました。

まず1つめは、再編を反対とする理由。

2つめは、小規模校のデメリットの軽減策。

そして3つめ、存続に向けた「全国的な令和の日本型学校教育のモデル校」にするための“協働”としての案です。

昨年市より提示された“生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方”および生駒市立学校教育のあり方検討委員会からの“答申”は《真に子どものための考えではない》と感じるが故に、多くの保護者・地域住民は受け入れることができないまま現在に至っています。

すでにご理解いただいているとおり、

子どもたちにとって“安全”よりも優先すべきものではありません。

地域にとって“学校”がなくなることの深刻さは計り知れません。

市・教育委員会におかれましても存続に向けた『本気の協創』という姿勢をご提示いただき大変心強く心より御礼申し上げます。是非前向きにご検討いただけますよう、よろしくお願いいたします。

【再編を望ましくないとする理由】

1. 安全性の問題

・通学路について

二小校区の多くの居住地域において通学路における安全確保が困難となります。

踏切・線路剥き出しの狭路（私道）、竜田川や国道の横断、また歩道が整備されていない箇所が多く、登下校の安全確保のためには、多くの道路や歩道橋の改修整備が不可欠です。（添付資料・通学路検証参照（危険箇所のうちの一部です。さらに危険な箇所も複数あります））

・公共交通機関の活用について

駅員不在の鉄道ホームや、コミュニティバスのセキュリティ面を考慮するとスクールバスの整備は必須ですが、放課後の学習活動・習い事・友人との遊び時間等に制約がかかることや、バス発着時の立ち会い等教職員の負担増となる事例報告もあり対策が必要です。また保護者の費用負担への理解も大きな課題となります。

・学童保育について

今後共働き世帯の増加が見込まれる中、南小敷地内の同施設を利用することで下校時や夏期休暇利用時の交通安全面において不安が生じます。生駒市の支援制度による民間学童保育設立に期待する一方で、保護者負担増加への懸念や不公平感、利益優先のためにベテラン指導員の切り捨て等、民間委託されている他自治体事例として課題も多々報じられており官民連携としての行政責任の明確化を求めます。

・避難所としての“生駒南第二小学校”

当地区自治会等においては平時より自助・共助に向けて様々な対策を講じられています。今後のリスクシナリオ^{※1}としてライフライン停止率は相当高い割合で発生するとされており、混乱を緩和するために自助（備蓄）共助（炊き出し訓練等、防災士養成支援）のほか、公助としての二小はやはり必要不可欠です。

生駒市の中でもトップクラスの高齢化率である当地区において、小平尾体育館の廃止による避難所集約も計画され、さらなる避難所スペースが必要^{※2}となる中、公助が縮小されることは多くの住民の不安増幅につながります。

また近年のゲリラ豪雨や内水氾濫の増加を考慮するにあたり、通学におけるリスク回避^{※3}として、また前述の避難所として二小の今期生駒市公共施設マネジメント推進計画期間のみとどまらない長期に渡る存続が望まれます。

以上安全上の理由により、適正配置として、二小の存続を希望します。

※1 「生駒市国土強靱化地域計画」参照、南海トラフ巨大地震や生駒断層帯内陸型地震が発生した場合。

※2 安全を確保できる人まで避難所に行く必要はないということは広く周知すべきことであるが、感染症対策としてもさらなる避難所スペースが必要となる（「生駒市地域防災計画」参照）

※3 生駒市災害ハザードマップ参照

2. コミュニティの核としての重要性

・将来人口推計への疑問

基本的な考え方および生駒市公共施設マネジメント推進計画における人口推計は、現時点での基本台帳に記載のある子どもの人数と国立社会保障・人口問題研究所の推計値を元に計算されていますが、一方で地域の実情は不確定な要素として含まれていません。

現在工事の進んでいる小平尾バイパスの完成に伴う開発の状況や、世代交代に伴う子育て世帯の増加、生駒市総合計画における特殊出生率の増加に向けた取り組み等においてなど、本推計値とは大きく異なる実数となる可能性も十分に考えられます。

安全安心に通学ができる小学校があることは若い世帯の転入促進へとつながり、町の活性化や防災、防犯、共助、においても有効であると考えます。まちづくりとしての要素が大きい本件の検討にあたっては、地域の特性や実情も視野に入れた協議を望みます。



市と市民との協創として昨年より実施されている「100の複合型コミュニティ」において参加させていただいた際に「若い世代の方と交流することなんてもう考えられなかった、とても嬉しい」という有り難いお言葉を度々いただき、地域との繋がりを感じることができました。また環境問題・SDGsに関して様々学ぶ機会も多く自分事として捉えるべきことと知る機会でもあり大変有意義な取り組みであると実感しました。（児童保護者）

・住み続けられるまちづくり

地域から小学校がなくなり、跡地の活用に工夫がなければ若い世帯の転入は望めず、ますます高齢化が進み、上記のような素晴らしい交流や取り組みの減少につながり活気が失われるばかりでなく、担い手の負担が増加することで自治会運営自体の持続性が危惧されます。

地域における小学校の存在意義は大変重く、住み続けられるまちづくりとして地域住民の十分な理解の上においてご協議願います。

・再編となった場合、コミュニティ・スクールとしての当校区における協働が快く受け入れられません（第2回二小校区地域協議会資料 2-2 磯崎委員まとめ参照）

3. 教育環境について

・小規模校におけるデメリット

基本的な考え方において様々なデメリットが挙げられ、小規模校においては多様性・協調性が育たないと示されていますが、二小保護者の多くが疑問を感じています。

「二小の子は“賢い” “優しい”」毎年そんな声を度々聞きます
(卒業生保護者)

入学前はクラス替えの出来ないこと等による不安もありましたが、逃げる事の出来ない濃い人間関係の中において、折り合いのつけ方を学び、お互いを尊重し、優しさや助け合う心が育つことを二小に通わせることで知りました。(在校生保護者)



社会にでるまでに中学校、高校、大学など、大きな集団に属する機会も増え、多様な考えに触れる中、自他共に尊重する人間関係を構築する力を養うためにも、児童期において適度に小さい規模の中で育つことが大変有意義であると実感しています。

・通学区域の見直しが最優先

大瀬中学校区であっても登下校における安全を考慮し南中学校への進学を望む保護者も複数居られます。子どもたちのよりよい教育のために市教育委員会におかれましては日ごろよりご尽力いただいておりますが、何よりも安全性を最重視した校区割りや中学校における選択制度の再検討、調整区域の見直しは小中一貫教育の推進するにあたってもやはり最優先事項としてご協議願います。

一方で南小・南中の老朽化が著しく早期の対策が必要であると存じます。二小児童数の著しい減少により将来的に再編となった場合において教室数が不足することは考えにくく、教育施設としての生駒南小学校については再編の有無にかかわらず優先して改修すべきと考えます。

・少人数学級の推進としての施設有効活用やチェーンスクール活用

教育署名のとおり子どもと教職員にとっての教育環境や、感染症対策としても十分に活用できる教育施設の存続を求めます。小規模校のメリットを活かしつつデメリットを軽減、経済性効率としても有効な分散型小中一貫校（チェーンスクール）もご検討願います。

4. 跡地の活用について

・答申に記載されていたとおり、地域が非常に積極的に学校運営に関わっている状況も鑑み、統合に伴うコミュニティの希薄化、更なる人口減少を招かぬよう、まちづくりの視点から、地域と十分協議の上検討していただくことを心より願います。生駒市公共施設管理推進計画として「再編となった場合でも本期間中は校舎を残す」との旨の記載がありますが、そのような方向性では地域の理解は得られません。



【基本的な考え方におけるデメリットの低減およびメリットの最大化】

現 状	方 策
デメリット 1. クラス替えができない。人間関係や相互評価の固定。クラス替えによって意欲を新たにしづらく、新たな人間関係の構築する力を育成しづらい。 2. 切磋琢磨する教育活動、社会性・コミュニケーション力の育成 ・ 班活動やグループ分けの制約 ・ 球技・合唱合奏、運動会での教育効果の低減 3. バランスのとれた教員配置 4. 校務負担 5. 代替教員の調整	1. ・ユネスコスクール加盟により国内外の他校児童との交流が可能 ・縦割り活動の範囲を拡大（掃除や給食時間など） 2. ・既存縦割り活動のさらなる充実、ESD の推進やユネスコスクール全国大会への参加により社会性やコミュニケーション力の育成を図る ・生駒北小学校など他校とのオンライン交流や行事の合同開催 3. ・オンラインの活用 ・チェーンスクール活用 4. ・スクールボランティアの推進による校務負担の低減 ・チェーンスクールの活用 ・ユネスコスクール加盟による教材・情報の共有 5. オンライン授業の活用
メリット 1. きめ細やかな指導 2. 発表やリーダーになる機会など、個々が活躍する機会が多い 3. 異年齢交流・体験学習・校外活動 4. 施設・備品の有効活用 5. 地域との連携	1. 3年生以上における35人学級を市として推進していただくことを望む。 2. ESD（SDGs達成に貢献する教育）の推進、こども会議の開催。 3. 第2回協議会PTA提出資料2-1, 前田委員資料2-3などの各具体的方策の実践 4. 空き教室の地域活用の推進、農業・環境などSDGsへの取り組み 5. ・放課後子ども教室、長期休暇中を利用し子ども食堂 ・教員負担の軽減としてスクールボランティアの推進 ・こみすてで生成された生ゴミ堆肥を活用して畑で野菜作り、炊き出し訓練や子ども食堂など地域へ還元。

【存続に向けた方策案】

SDGs 未来都市モデル校

●ESD×地域コミュニティ

1. ユネスコスクール加盟

持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）を SDGs 未来都市モデル校として推進

☆☆国内外のユネスコスクールとの交流により多様性、コミュニケーション力、学ぶ意欲の向上が見込まれます。

☆☆地域との連携が必須です。二小校区においてのコミュニティは優れています。2016年に二小はユネスコの精神に沿った教育活動が評価されグリーンフラッグを取得しており実践・継続するにあたり最適な環境が整っています。

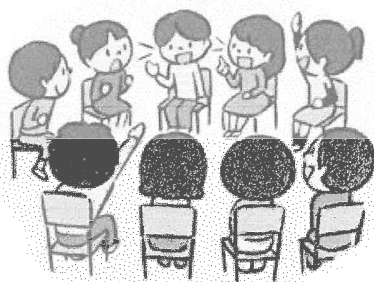
詰め込み型教育でなく、主体的・対話的な学びを実践するモデル校として、奈良教育大学など支援機関にご助言いただき、ユネスコスクール加盟を目指します。

二小は地域とのつながりが深く、様々な点において連携・サポート体制が優れています。

地域・保護者の見守りの下、自由な遊び・学び・交流をする場として放課後の学校施設を活用することは、地域全体の防犯としても、異世代間交流としても、大変有意義であり、また災害発生時における共助としても有効であると考えます。



2. こども会議の開催



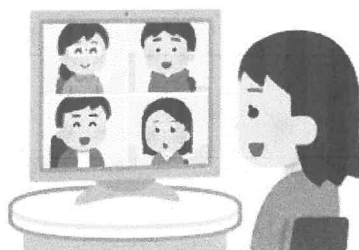
活動は子どもたちが中心となり、

「地域の中で自分たちにできること」や「みんなで考えるSDGs」などのテーマに沿って学年に関係なくみんなで意見を出し合い行動・検証（ディスカッション、PDCAサイクルの実践）

地域保護者サポートスタッフの口出しは最小限に、見守り応援団として入ります。

3. 絵本のひろばの開催

放課後や長期休暇を利用し、読み聞かせではなく自由なスタイルで世代を超えた仲間や地域みなさんと絵本を楽しむ時間や感情を共有する加藤啓子先生の提唱する“ひろば読み”の開催（地域に開かれた学校の実践）



4. “オンライン交流”

生駒北小学校や他校とのオンライン交流の実施。
また、生駒市教育プランナーの尾崎えりさんにご協力いただき子どもたちがどのような交流をしてみたいかなど共に考え試行錯誤しながらより良い交流を目指します。

これらの活動は子どもたちの主体的に学ぼうとする力、プレゼン力、多様な考えを認め合う力、政治や環境への関心、自己肯定感、コミュニケーション力を高めることに有効であると推察されます。

●子どもの居場所×フードロス・地産地消

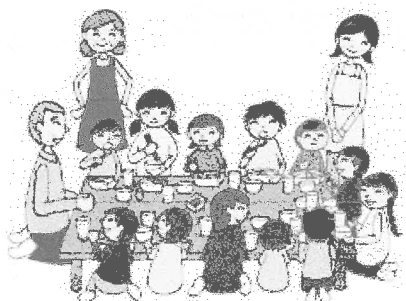
5. 二小食堂

放課後や土曜日、長期休暇中などに、

子どもたちも簡単な調理や配膳等準備スタッフとして働き、地域の方々とともに同じご飯を食べる場を設けます。大人は有料、子どもは無料もしくは低価格。

SDGs推進校としての意義も兼ね1食につき20円を開発途上国の子どもの学校給食になる“TABLE FOR TWO”（TFT）への取り組みとして寄付することも検討いただきたいと思います。

フードロスや地産地消への取り組みを同時に行うことや、地域の農家さんにご指導いただき、“こみすて”で生成された堆肥を活用し二小ファームを作り環境や生態系、農業への関心を高めます。

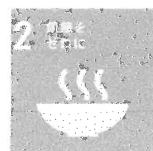


6. ランドセルバンク設立



不要になったランドセルを、支援団体を通じて国内外の子どもたちへ寄贈。海外輸送費1,800円（1つにつき）が必要となるため、キッズフリーマーケット等を開催し輸送費に充てる。もしくは他にどうすれば輸送費を稼ぐことができるか、子どもたちと考える。

7. ユニセフマンスリーサポート



P T A活動としてSDGsの理念を理解し、他人事ではなく自分事として会費の一部をマンスリーサポートに充てます。負担とならないよう既存の活動内容を見直すことも必要かもしれません。

併設×誰ひとり取り残さない社会へ

●子育て支援×就労支援

11. 親子カフェ事業



未就園児親子が安心して遊べ、くつろぎ交流できるひろばとして、将来通う地域の学校敷地内に遊び場や親子カフェが併設されることはとても嬉しいです。

様々なハンディキャップのために就労の機会や地域での交流に制約がある方々の働きがいやステップアップ、交流促進として、社会福祉法人・地域との協働によりカフェ・ランチなどを運営し、安全な環境の中で子どもたちの遊びを見守りながら育児中保護者がゆっくりとりフレッシュや仲間と交流できる環境の整備することは、地域の活性化にもつながります。

多様性を認めあうには常日頃からのつながりが大切だと思います。



もっと気軽に子連れランチしたいな？



●子ども居場所×地域交流

12. フリースクール併設

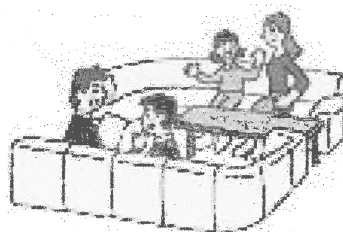


市内全域より様々な理由で登校できない子どもたちにも、自由に学べる環境をつくり、様々な人と交流できる場は大切です。

放課後は二小の子どもたちも合流可能とすることで、新しい人間関係やコミュニケーション力、多様性を認め合う心をお互いに育むことも望めます。

全国的に不登校児童が増加する中において、ユネスコの精神に沿い、詰め込み型教育ではなく、主体的な学びをサポートする場であること、生きているだけで価値がある、と認識できる場が今の時代には必要であると感じます。

地域のサポートが必要不可欠です。



シビックプライドの醸成

●笑顔×アイデア

8. プロジェクションマッピング

二小校舎を活用しいつも温かく支援してくださる地域の皆様への恩返しを兼ねて、子どもたちと保護者有志で制作実行したいです。今年は生駒市政 50 周年でもあり、可能であれば奈良先端科学技術大学院大学にご助言を賜りつつお祝いすることができれば素晴らしい思い出となり、シビックプライドの醸成にもつながるのではないかと考えます。

9. 歩きたくなるハイキングコース作り

一度は歩いてみたくなる工夫が盛り沢山のハイキングコース作りを児童、保護者や地域の有志で考えます。他にも、老若男女みんなで防災ゲームの開催や、遊休農地を活用し田んぼアートなど、みんなが笑顔になることで学校と地域を守りたいです。



キャリア教育の実施

10. 本日開店！たこ焼き屋さん

長期休暇中などに、キャリア教育として商売を体験してもらう機会に。

2021 年春号の学びの種（子ども新聞）に掲載された親子向け金銭教育イベント「Let's トライ商売！本日開店“たこ焼き屋さん”」に親子で参加させていただきました。商売を始めるにあたり資本金調達のための事業計画、アルバイトを雇うことや他店との競争に勝つためにどんな工夫をすればいいのか、などをチームに分かれて相談しながら純利益を競いました。ゲーム感覚で対話をしながら進めるという工夫がありとてもいい体験となりました。

講師をされていた NPO 法人 C・キッズ・ネットワーク様、主催の奈良県金融広報委員会（奈良県文化・教育・くらし創造部奈良県消費生活センター）様より、小学校においても出前授業として開催可能であるとお聞きしています。

【おわりに】

二小校区の地域住民・保護者の大多数が、再編によるメリットよりも存続によるメリットを望んでいます。

反対理由を示す必要があるとのことで冒頭に主な内容を記載いたしましたが、

“反対を示すより、存続のためにできること”を念頭に協働としての案を考えてきました。

少子高齢化や共働き世帯の増加が見込まれる中でどのようなことができるのか、

どのような工夫をすれば負担と感じずに楽しんで協働できるのか、まだまだ知恵を出し合いできることを話し合いたいと願っています。

また文部科学省より今後更に検討を要する事項として、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制を両輪として個別最適な学びと協働的な学びによる「令和の日本型学校教育」を実現することが提示されています。

「全国的なモデル校」を目指す上で、少人数学級の実現にむけたモデル校として取り組んでいただくこともひとつの視点であると考え、加配支援等、総合教育会議の場におかれましては今一度ご検討をいただけることを切望いたします。

共働きであっても“子育てしやすいまち、いこま”を望み、ワークライフバランスをより身近に感じられるまちとなるよう市と共に創り市民としての誇りを感じることができれば幸いです。

🏠通学路の検証①🏠

統廃合により、二小校区の子どもたちがバスを使わず通学する場合、どのような問題点があるのかを検証するため、徒歩と電車を利用して南小学校へ行ってみました

【往路】《《徒歩 36 分》》

7:40 発 萩の台住宅自治会館

8:16 着 南小学校

※実際に登下校が予想されるルートで検証を行いました。規定や最善のルートではありません。

●危険箇所●

①萩の台郵便局裏側～踏切への道

歩道がほぼない。車と歩行者との距離が近すぎる。

墓地付近のカーブでは遮断器や電車の走行音により車の接近に気づくのが遅れ、とても危険。

カーブ下の横断歩道も田んぼの横の側溝も危険。

通勤時間で交通量が多い。

『昨年不審者情報が多発した頃に、この狭路を娘と歩いているとクラクションを鳴らしながら猛スピードで走行する車に遭遇したことがあり娘は怯えていました(通報済み)』

②踏切付近

竜田川に繋がる用水路沿い。ガードレール、歩道なし。

③竜田川の横断(乙田橋)

歩行者信号無し。

『橋を渡りながら、災害時にこの竜田川で分断され迎えに行けなくなるのでは…と不安に感じました。』

④旧国道竜田川沿いの道

車の通行量もわりと多いが歩道は狭い、子ども達だけで行かすのはかなり不安。

⑤リッケンのT字路

歩道、ガードレール、横断歩道なし。

3方向より車が来るので、子どもだけで渡るのはとても危険。

⑥国道の横断

業務スーパー前のスペースは狭く集団での信号待ちは危険。路面の凹凸もあり大変危険。

⑦南こども園の方から暗峠へ抜ける道

交通量が多く危険。トラックも通り、道路脇に待機していても不安。また水路もあって危険。

【帰路】《《徒歩+電車 28分》》

南生駒⇄萩の台の電車通学を想定しての検証。(実際の下校時間ではない)

●危険箇所●

①南生駒「ちゅら」前の道

歩道やガードレールがなく、車とすれすれでとても危険。

②南生駒駅までの竜田川を渡る橋

狭く、子どもたちは怖がっていた。

③駅前の線路沿い道路

交通量が多いが歩道がとても狭い。車との距離が非常に近い。横断歩道もなかなか車が止まってくれず危険。

④本数が少なく、ホームに駅員不在

ホームでの待機時間が長くなると、体調不良等での早退時は非常に不安。

【子どもたちの感想】

ランドセルが重たくて降ろしたい。

ご褒美があったからがんばれたけど、ご褒美なしで毎日は嫌だ。

ママ達なしではとても不安。

*夏期の下校時などは、徒歩での帰宅は脱水症の不安もあり非現実的であると感じます。

*ガードレールの設置、道の整備、駅員のホーム配置依頼等、子ども達の安全に関わることはなによりも最優先させるべき事態であると感じました。

通学路検証 危険箇所

萩の台住宅地自治会館～生駒南小学校



We love 二小